

Press Release(H26/2/28)

岐阜大学から誕生した観葉植物「フェアリーウイング」を
被災地の子どもたちに！

本学の森秀樹学長が、本学が研究開発した観葉植物「フェアリーウイング」を福島大学附属学校の児童・生徒にお届けします。

フェアリーウイングは、白いかわいらしい花をさかせ、花・葉ともに肉厚で、耐暑性、耐寒性、耐乾性に優れた観葉植物です。このフェアリーウイングを、いまだに野外での活動が制限されるなど不自由な生活を強いられている東日本大震災の被災地の子どもたちに届けることができれば、屋内の生活に少しでも癒しを与えることができるのではないかと考えました。

福島大学附属学校には、平成24年2月に本学附属学校の教員2名が、被災状況下での授業実践について学ぶため現地に赴いています。福島大学附属学校の先生方には、被災後の大変な状況にもかかわらず、授業の実践や避難マニュアル等をご教示いただき、本学附属学校教員にとって大変有意義な研修となりました。このことから福島大学附属学校にフェアリーウイングを届けたいということになりました。

福島大学附属学校には、下記の日時等にお届けいたします。

記

日 時 平成26年3月4日(火) 10:15～10:45
場 所 福島大学附属小学校 あおい広場 (福島市新浜町4-6)
贈呈品 観葉植物「フェアリーウイング」
出席者 福島大学長 入戸野 修
岐阜大学長 森 秀樹

※「フェアリーウイング」については、別紙を参照ください。

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学総合企画部総務課長補佐 長屋 倫明
TEL: 058-293-2007
E-mail: gjga01002@jim.gifu-u.ac.jp

※観葉植物「フェアリーウイング」についてのお問い合わせは下記をお願いいたします。

【フェアリーウイングに関する問い合わせ先】

岐阜大学応用生物科学部・生産環境科学課程・園芸研究室
教授 福井博一
TEL: 058-293-2892
E-mail: fukui@gifu-u.ac.jp



岐阜大ブランド
観葉植物スパティフィラムの新品種

Fairy Wing

フェアリーウイング
“世界で評価された和の観葉植物”



観葉植物スパティフィラムの新品種「フェアリーウイング」は、本学応用生物科学部の福井博一教授の研究室で、長年研究されてきたバイテクノロジーの技術（倍数体形成技術）によって誕生しました。

岐阜大学としては、種苗登録第1号の品種となります。

さらに、この品種は、オランダで開催された2012年フェンロー国際園芸博覧会（フロリアード2012）において金賞を受賞しています。

【フェアリーウイングの特徴】

白い花が丸みを帯びた可愛い形です。

花・葉ともに肉厚で、耐暑性、耐寒性、耐乾性に優れ、花粉が出ないためテーブルを汚すことはありません。花が終わってもインテリアグリーンとして楽しめます。光合成能力が高く、室内照明の明るさでも管理できます。

【こだわりポイント】

＜こだわりの名前＞

花の部分が妖精の羽をイメージさせることから「フェアリーウイング」と名付けました。

＜こだわりの培養土＞

長く楽しんでいただくために、土にもこだわっています。水の保ち方をよくするため、ピートモスとハスクチップを配合。肥料持ちをよくするため、亜炭とバーク堆肥を配合。さらに、気相（空気）率確保のために、パーライトとロックウールを配合しました。

＜こだわりの器＞

伝統工芸士の土田育弘氏により、土岐市の隆月窯で焼かれた美濃焼の器に入れて販売いたします。これにより「和」の雰囲気演出されます。

【フェアリーウイングの開発に至るまで】

岐阜県や岐阜市の産学共同研究助成を受け、岐阜花き流通センター農業協同組合と共同で、暑さや寒さなどの耐候性に優れた品種の開発が進みました。この開発には、研究室で長年研究されてきた倍数体形成技術を用いています。この技術により、染色体の数を3倍体、4倍体などへ変形させることにより、花の色、形、性質などが元の個体と異なる個体を生み出すことができます。研究室では、何千もの個体を1個ずつ多様な条件の下で、分析した結果、一番効率の良い4倍体細胞を生み出し、新品種「フェアリーウイング」の開発に成功しました。

詳細な内容は、Web サイト <http://www1.gifu-u.ac.jp/~wing/index.html> をご覧ください。